



乗り越える経験（非認知能力向上事業11・12～13）

非認知能力向上事業がモデル校の小学校1～3年生で進められています。演劇ワークショップでは、なりたい役を決めて、どんなシーンにするか話し合い、表現します。見ている他の子どもたちは何を表しているかを当てます。

2回目のワークショップで小さな失敗がありました。あるグループが、なりたい役を十分に話し合うことができず、発表を迎えてしまったのです。当然、何を演じているのか全く伝わらず、ファシリテーター（指導者）からもその点を指摘されました。ファシリテーターからは、さらにグループにひとつずつ異なるテーマを与えられ、他のグループはますます活発に話し合いや練習に入りました。

失敗したグループを見ていると、4人は少し離れて、しばらく無言で座っていました。すると、そのうちの一人が他の子に話しかけ、少し微笑んだり、真ん中に集まったりして、話し合いが始まりました。その様子を見守っていたファシリテーターの一人が、グループに近づき、しばらく観察した後、関わりを始めました。

そしていよいよ2回目の発表。失敗したグループは、4人がそれぞれの役割を演じ切り、見ていた子どもたち、ファシリテーターから大きな拍手をもらいました。

自分たちの演じたものが、見ている友達に伝わった瞬間、4人は笑顔になりました。

演劇ワークショップでは、こうした小さな失敗（うまくいかないこと）を、自分事として子どもたちの力で乗り越える経験（プロセス）を大事にして、非認知能力を強化していきます。



「せいかい！」「やったー！」

（※本文のグループとは関係ありません）

不登校担当者研修会

参加者でペアワークやグループ協議をし、事例研修を行いました。様々な立場、経験等から多様な見方・考え方が出されました。寄り添いの質の向上を、各校で目指します。



第4回 ICT 学びへの活用研修会

学習アプリ「ラインズeライブラリ」を使って、ドリル学習、児童生徒に合った教材の出題、学習履歴の活用等を研修しました。参加者からは、「導入、小テスト、振り返りに適切に活用することで、学習効果は上がると思う。」等の感想がありました。

ICT 活用研修も4回を終了しました。端末導入に向けて、各校での伝達講習、準備が進んでいます。